

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	HA	学部・学科	国際教養学部
学 年	3	派遣国	ドイツ連邦共和国
派遣大学	ゲーテ大学		
期 間	2024 年 10 月 1 日～ 2025 年 9 月 30 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○ (暖房のみ)	冷蔵庫	○
滞在費	約 (42,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩もしくは地下鉄) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	21,000 円	週 30€ × 4 週
学用品購入費	1,050 円	講義資料 60€ ÷ 6 か月
交通費	0 円	学生証に公共機関乗り放題付き
交際費	12,000 円	飲み会、旅行など
その他	13,000 円	ジムなど

合計

47,050 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

フランクフルト中央駅の周辺は薬物使用者やホームレスが集まっており夜間は特に危険。Hauptwache 駅は街の中心部で人通りがとて多く、隣駅の Konstablerwache 駅の広場には怪しい人たちが集まっているため注意が必要。
その他のエリアは基本的に安全で危険を感じることはまず無いと思う。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Techniker Krankenkasse (TK)		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(246,400) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**フランクフルト・アム・マイン**)
ドイツ中西部に位置する金融都市。ヨーロッパでは珍しく高層ビルが立ち並び、東京や大阪のような現代的な街。ドイツ主要の国際空港があるため街の人々も国際的で、多くの場所で英語が通じるため生活しやすい。
フランクフルト中央駅は薬物中毒者やホームレスが多く、治安が悪いことで有名。また危険性はないが多くのスーパーの入り口には物乞いがいることがある。しかし基本的にドイツは国民性もあってかスリや窃盗は少なく、日中に街を歩いていて危険を感じることはない。博物館が多く、ユダヤ人博物館や映画博物館など多種多様なテーマが楽しめる。自分の寮 (Ginnheimer Landstrasse 42) と大学の間には大きな植物園があり、博物館含め学生証があれば無料で入ることができる。
ヨーロッパの移動手段として街中ではレンタルサイクルや E-スクーターが普及しており、フランクフルトでもよく見かける。ゲーテ大学の学生は DB が運営する Call a bike を無料で連続 60 分まで利用でき、中・長距離の移動では地下鉄や快速列車が乗り放題となる Deutschland-ticket があるため非常に便利。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ゲーテ大学	所在地	フランクフルト
最寄空港	フランクフルト国際空港	空港からの距離	約 40 分
空港⇄大学	(S-Bahn もしくは RE,RB で中央駅、U-Bahn に乗り換えて到着) *移動手段		
学生数	48,000 名以上	留学生数	7,600 名程度
学部	● 法学 ● 経済学 ● 社会科学 ● 教育学 ● 心理学とスポーツ科学 ● プロテスタント神学 ● カトリック神学 ● 哲学と歴史 ● 言語学と文化研究 ● 現代文献学 ● 地球科学／地理学 ● コンピュータサイエンスと数学 ● 物理学 ● 生化学、化学、薬学 ● 生命科学 ● 医学 ➤ *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	社会科学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				Migration, Integration and Social Stratification	
午後	AkadeMi A		● Classic of International Relations Theory: Kenneth Waltz ● AkadeMi A		

② (4)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				Youth transitions and social policy	
午後		International Relations: History and Concepts		Integrated Language Skills (Level I)	

3. 履修内容

科目	AkadeMi A (Akademische Mittelstufe)		
履修期間	10-2 月（冬セメスター）	単位数	9
授業内容／形態	ドイツ語 A1.1 レベルの授業。 教科書と問題集を使ってドイツ人講師と基礎的なドイツ語の習得を目指す。 ペアでスピーキングの練習もするため		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Migration, Integration and Social Stratification		
履修期間	10-2 月（冬セメスター）	単位数	3
授業内容／形態	移民の社会同化、融合やそれらに対する社会政策に関して学ぶ。 講義の前半に教授が毎週の論文を解説し、後半は学生がその回のテーマに合った必須のプレゼンテーションを行う。 発表は 1 人 1 回必須。		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Classic of International Relations Theory: Kenneth Waltz		
履修期間	10-2 月（冬セメスター）	単位数	3
授業内容／形態	ケネス・ウォルツの国際関係論を学ぶ。 毎週彼の著本や彼に関する論文を読み、教授が講義内で解説を行う。		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Youth transitions and social policy		
履修期間	4-7 月（夏semester）	単位数	3
授業内容／形態	ドイツの教育制度といった青少年に関する社会政策を学ぶ。 講義の前半に教授が毎週の論文を解説し、後半は学生がその回のテーマに合った必須のプレゼンテーションを行う。 発表は1人1回必須。		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	International Relations: History and Concepts		
履修期間	4-7 月（夏semester）	単位数	3
授業内容／形態	様々な国際関係論の論文を読み、考え方を学ぶ。 毎週彼の著本や彼に関する論文を読み、教授が講義内で解説を行う。 授業内と各自でそれぞれ4回、300words程度の感想文を書く。 講義内での発言も推奨され、加点対象。		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Integrated Language Skills (Level 1)		
履修期間	4-7 月（夏semester）	単位数	3
授業内容／形態	英文法と MLA 形式での論文様式を学ぶ。 Hyper Grammer2 というサイトと独自の教科書を使用し、講義の始めに班ごとに学生が各回の文法を解説し、その後 MLA 形式について教授が解説する。成績評価として指定されたテーマで MLA 形式の論文の作成、文法テストを行う。		
成績	合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

- ・世界史の舞台
- ・パーソナリティの違い
- ・価値観の違い
- ・勉学に対する意識の違い
- ・学生に対する扱いの違い
- ・人種の問題

ヨーロッパへ留学した感想として、当然であり月並みであるがやはり日本との文化の違い、いわゆるカルチャーショックをたくさん経験できたことは留学してよかったと心から思えることだと思う。人生のほとんどを日本で過ごししながら、少なからず外国や国際関係に興味をもって生きてきたが、それでもやはり現地に住んで自分で直接知る、経験することはそれでしか得られないものがあった。

具体的には人々のパーソナリティや様々な価値観だ。ヨーロッパの人々は店員との挨拶はもちろん、他人との交流に抵抗があまりない。レストランでは隣の席の人に話しかけるし、ジムでは帰り際に挨拶をする。他人のプライバシーを尊重する、もとい自身のパーソナルゾーンを大事にする日本人とは相反するものだ。

他にはヨーロッパは学生にとっても優しい。日本では施設利用や美術館、博物館の割引対象は多くが高校生もしくは中学生以下だが、ヨーロッパの多くの国では学生が割引対象に含まれることがほとんどだ。そのうえ学生の年齢区分も 28 歳や 35 歳以下と広い範囲に適応される。国によって異なるがドイツは授業料が基本無料なため勉学の機会が各々の経済力に左右されにくく、多くの人々が勉学に励む機会を得られる。多くの人に学問の門戸は開かれるべきという考え方が、学生に優しい環境を作っているのだろう。

学生自身の意識も日本とは大きく異なっていた。各授業毎週 20 ページほどの読み物が課され、講義中での発言が求められる。グループディスカッションも多く自分の意見を持ち、伝える力が必要となる。母国語でない英語の授業であるためとても大変だが、にもかかわらず教授の問いに間髪入れずに応答する学生は少なくない。様々な国が隣接するヨーロッパの特性上、共通言語である英語の需要は高く実践の機会も多いことは確かだが、学問的知識や単語を駆使しながら積極的に授業に参加する学生たちは、日本との大きな違いだと感じた。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この留学中様々な国に行ったが、どこでも通じる英語の強さを改めて実感した。またそれと同時に、講義や友人との交流をする中で実践英語のレベルの高さを感じた。レスポンスの速さ、単語力やリスニング力、文章構成力など生きた英語に触れ続けたからこそその質の高さを感じた。幸いにも YCU には APE や多文化講義があるため、積極的に参加し今の英語レベルを維持しながら、将来仕事相手として彼らのレベルに対応できる程度の英語をつけていきたい。

ゲート大学での授業で最も面白かったのが国際関係論だった。島国単一民族国家の日本とは異なり、様々な国家や人種、移民が入り混じるヨーロッパで実際に暮らしているからこそ深く理解できることが多くあった。今回の経験を踏まえてまた YCU でも国際関係の講義を履修し、さらなる理解を深めたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

もし留学が可能なら絶対に行った方がいいです。人それぞれ留学のゴールや目的があっても、もしそれが達成できなくても、必ずそれは経験となってあなたの価値観や物の見方に影響を与えてくれます。チャンスがあるなら逃さないで!!

自分は英語以外全く話せない状態でドイツ留学を決めたので、英語が話せればヨーロッパにおいて言語の壁は最低限超えられます。ただし現地語を学ぶことは言葉を話す以外にも多くのことを学べるのでお勧めです。留学先で現地語のレッスンがあれば友達も作れるので是非受けましょう。

ドイツの個人的おすすめポイントは Deutschland-Ticket。ドイツ全土の快速までの電車・バス・トラムが乗り放題なので気軽に隣町に行ったり、8 時間かけてベルリンまで旅行したりと行動範囲がとてつもなく広がるので便利すぎます。知り合いはこれでドイツの世界遺産 52 件をすべて回ったそうです。これは DB を持つドイツだからこそその利点なので旅行好きの人にドイツは特におすすめです。